

▼コパキソン皮下注シリンジ [注]

【重要度】 【一般製剤名】 グラチラマー酢酸塩 glatiramer acetate 【分類】 多発性硬化症治療剤

【単位】 ▼20mg/syr [1mL]

【常用量】 20mg/日

【用法】 1日1回、皮下注■注射部位は腹部、上腕部、大腿部、腰部■投与毎に注射部位を変更し、原則として同一部位への投与は7日間あける

【透析患者への投与方法】 おそらく減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 おそらく減量の必要なし (5)

【特徴】 末梢のリンパ節内の抗原提示細胞 (APC) 表面に存在する主要組織適合遺伝子複合体 (MHC) 分子に結合し、Tcell 活性化を阻害する。GA 反応性 Th2 細胞が誘導され、中枢神経系でミエリン塩基性蛋白自己抗原により刺激され抗炎症サイトカインや神経栄養因子を分泌する。さらに抗原非特異的な機序により、APC 機能を修飾し、炎症性サイトカインの低下や抗炎症性単球の形成を促進。

【主な副作用・毒性】 注射直後反応 [胸痛・過敏反応]、注射部位の壊死、過敏症、肝機能障害、不安、振戦、痙攣、血管拡張、呼吸困難、発疹、眼の障害、浮腫、胸痛、悪心、嘔吐など

【安全性に関する情報】 MS 患者での忍容性は高い (Ziemssen T, et al: Drug Saf 24: 979-90, 2001 PMID: 11735654) フマル酸ジメチル使用例より有害事象は少ない (Zagmutt FJ, et al: Int J Neurosci 125: 798-807, 2015 PMID: 25387069)

【F】 資料なし (1)

【代謝】 皮下組織及び筋肉組織で加水分解 (1)

【排泄】 分解されて尿中に排泄 [マウス] (1)

【CL】 資料なし (1)

【蛋白結合率】 97% (1)

【Vd】 資料なし (1)

【MW】 2,500~20,000

【透析性】 資料なし (1)

【薬物動態】 現在の技術では血清濃度を測定できない (1)

【O/W 係数】 該当しない (1)

【相互作用】 ステロイド剤：注射部位反応に関連する可能性 (1)

【主な臨床報告】 IFN-β の効果が十分でないか忍容性がない場合の選択肢 (Francis DA: Int J Clin Pract 55: 394-8, 2001 PMID: 11501229)

【更新日】 20201217

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。